



第24回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト



毎年恒例「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」が行われました。開催日の2月16日(土)は、少し春の気配を感じる好天に恵まれました。

7か国出身の参加者15名によるスピーチのテーマは多種多様で、それぞれにとっても印象に残る内容でした。審査委員長の関口明子さんは講評の最後で、「今の世の中で、日本を選んで来てくれた若者たちを見てうれしく思います。これからもよろしく…」と感慨深く語られていました。



▲司会のゴーシュ・ミタリさん
(バングラデシュ出身) (左)
マリア・ブーエ・ケッセルさん
(ノルウェー出身) (右)



上位受賞2名にインタビューしました。

〔質問内容〕

- ① 日本語スピーチコンテストに参加したきっかけ
- ② テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
- ③ 川崎の好きなところ、良いと思うこと

最優秀賞

戴 曼玲さん (台湾出身)
「東京の電車」

川崎商工会議所会頭賞

魏 仙麗さん (中国出身)
「親孝行する人 される人」



- ① 台湾で2年間、学校の授業で日本語を勉強しました。日本に来てまだ半年ですが、通っている高校の先生から「目標を作ること」をアドバイスされ、参加することにしました。先生からの指導はもちろんですが、ホストファミリーの支えと応援のおかげで出場することができました。
- ② 毎日、品川から武蔵小杉まで通学しています。品川駅はたくさん路線が通っていて、大勢の人がいろいろな方向に向かって歩いていることに、はじめは本当に驚きました。遊びに出かけた時は逆方向の電車に乗ってしまったり…いろいろな経験をしたのでこのテーマにしました。
- ③ 在学している高校が大好きです。学校の最寄り駅の近くにある「グランツリー武蔵小杉」もよく行きます。また、日本のコンビニも好きで、アメリカンドッグをよく食べています。

- ① 「家族に感謝する気持ちや愛を伝えることはとても大切だ」ということを皆さんに伝えたい。それを伝えることが社会への貢献になると思っています。スピーチコンテストは、そういう自分の気持ちを伝える良い機会なので参加しました。今日は自分の考えが伝わり、賞をいただいて、私にとっての社会貢献の新しいスタートになったと思います。
- ② 私は自分の家族が大好きです。親が高齢になっていくのを感じ、これからは、もっともっと親子や家族の関係を大事にしたいと思っているので、このテーマを選びました。
- ③ 今留学している専修大学が好きで、住んでいる大学寮での生活が楽しいです。ゼミの先生が素晴らしく、大学には親しい友だちもいて、毎日とても楽しく学んでいます。川崎の良いところは、人が優しいことと空気がきれいなことです。



川崎ライオンズクラブ 優秀賞
朱 淨銳さん (中国)
「私は着物が好き!」



川崎市国際交流協会 優秀賞
李 静怡さん (台湾)
「ありがとう」



川崎ライオンズクラブ 特別賞
ウィンレット トウンさん (ミャンマー)
「今、伝えたいこと」



川崎市国際交流協会 特別賞
ジェッサダゴン・ティチブンテチャさん (タイ)
「日本に来て幸運な私」

(取材・原稿:編集ボランティア 相沢 明子、小島 俊彦) (写真:安田 芳郎)